

食育推進組織 (校内保健委員会)

委員長：校長、副委員長：教頭 ※ 必要に応じて、保護者代表、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の参加
委員：教務主任、保健主事、養護教諭、学年主任、給食主任 (食育コーディネーター)、栄養教諭、体育主任、学級担任

食に関する指導

- 教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 等
- 給食の時間における食に関する指導：食に関する指導：献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
- 個別的な相談指導：肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ 等

地場産物の活用

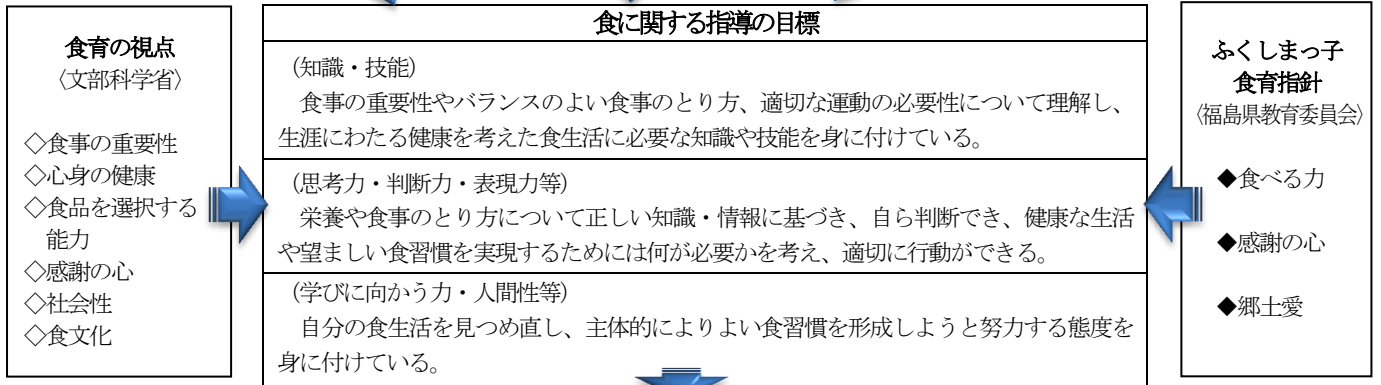
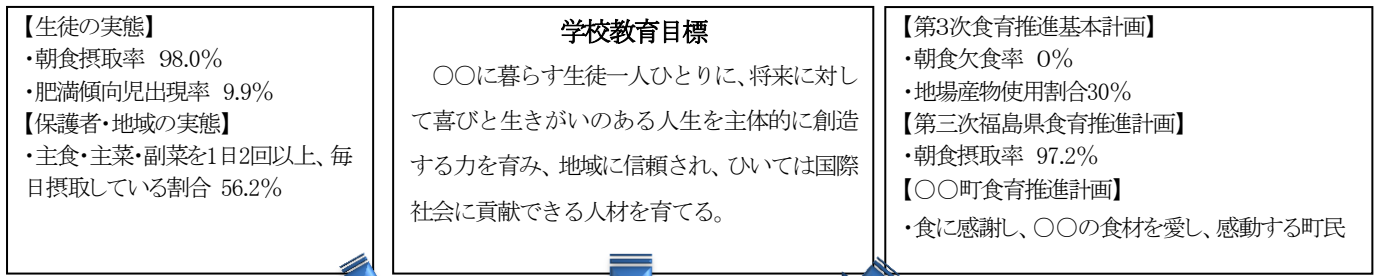
物資選定委員会 (給食担当者会議)：年3回、構成委員 (給食センター所長、校長、給食主任、養護教諭、栄養教諭)
地場産物を使用した給食の校内放送や指導資料を使用した給食時の指導の充実、教科等の学習や体験活動と関連を図る。

家庭・地域との連携

学校だより、食育だより、保健だより、ホームページ、自分手帳、学校給食試食会、家庭教育学級、学校保健委員会、新入生保護者説明会、講演会、自治体広報誌、公民館活動、生産者団体、地域保健委員会

食育推進の評価

活動目標：給食時間、教科等において計画的に食に関する指導ができたか。献立を通して3回の食事の重要性を指導できたか。
成果目標：給食の残食を減らす(1)。朝食を食べる(2)、朝食で野菜を食べる(3)、朝食で汁物を食べる(4)児童を増やす。
(1) 5.7% → 4.5% (2) 97.7% → 98.8% (3) 54.7% → 60.5% (4) 50.9% → 56.6%



重点目標 バランスのよい食事をする生徒を増やす

幼稚園 保育所	小学校	各学年の食に関する指導の目標		
<ul style="list-style-type: none"> 楽しく食事をする子どもを育成する。 いろいろな食べものに慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べものの働きについて理解している。 食事のマナーを身に付けている 中学校区学校保健委員会を活用して、連携に努める。 	1年	2年	3年
		<ul style="list-style-type: none"> 充実した中学校生活を送るためには、生活リズムを整えること、バランスのよい食事摂取が大切であることを理解している。 食事内容を見直し、自分で補い、栄養バランスを整えることができる。 中学生の生活リズムに合った食生活を送ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 成長期における食事の重要性について理解している。 運動量に合わせた食事のとり方ができる。 自分の身体の成長や活動にあった食事のとり方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 摂取量と消費量のバランスが心身の健康の保持増進に大切であることを理解している。 栄養バランスを考えて献立を組み合わせたり、料理を作ることができる。 食事を通して自らの健康管理をしていくことができる。

食育推進組織 (校内保健委員会)

委員長 : 校長、副委員長 : 教頭

委員 : 保健主事、養護教諭、食育コーディネーター、栄養教諭 ※必要に応じて、保護者代表 (会長、厚生委員長)、学校医の参加

食に関する指導

教科等における食に関する指導 : 関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動 等

給食の時間における食に関する指導 : 食に関する指導 : 献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
給食指導 : 準備から片付けまでの一連の指導の中で習得

個別的な相談指導 : 肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ 等

地場産物の活用

物資選定委員会 (給食担当者会議) : 年3回、構成委員 (校長、給食主任、養護教諭、栄養教諭)

地場産物を使用した給食の校内放送や指導資料を使用した給食時の指導の充実、教科等の学習や体験活動と関連を図る

家庭・地域との連携

学校だより、食育だより、保健だより、ホームページ、自分手帳、学校給食試食会、家庭教育学級、学校保健委員会、新入生保護者説明会、講演会、自治体広報誌、公民館活動、生産者団体、中学校区学校保健委員会

食育推進の評価

活動指標 : 望ましい栄養や食事のとり方についての食に関する指導が計画通り実施できたか。

成果指標 : バランスのよい食事を1日2回以上摂取している生徒56%→65% 肥満傾向児出現率の低下を目指す

<p>【児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率 ○ % ・朝食での野菜摂取率 ○% ・朝食での汁物摂取率 ○% ・肥満傾向児出現率 ○% <p>【保護者・地域の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○ 	<p>学校教育目標</p> <p>児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指したくましい生活力と心豊かな人間の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎明るく元気な子ども ◎進んで学習する子ども ◎仲良くがんばる子ども 	<p>【第3次食育推進基本計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を欠食する子 0% ・栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民 70% <p>【第三次福島県食育推進計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肥満・やせ傾向の割合 3.5% <p>【ふくしまっ子食育指針】</p>
--	---	--

<p>食育の視点 (文部科学省)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇食事の重要性 ◇心身の健康 ◇食品を選択する能力 ◇感謝の心 ◇社会性 ◇食文化 	<p>食に関する指導の目標</p> <p>(知識・技能) ○を理解し、○○を身に付けている。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等) ○について考え、○○できる。</p> <p>(学びに向かう力・人間性等) ○○を実現したり、○○したりしようとする態度を養う。</p>	<p>ふくしまっ子食育指針 (福島県教育委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆食べる力 ◆感謝の心 ◆郷土愛
--	---	--

<p>入学前</p>	各学部の食に関する指導の目標			<p>進学</p>	
	小学部		中学部		高等部
	低学年	<p>・各校の実態に合わせ、発達段階を考慮し資質・能力の三つの柱で記述</p>			企業事業所
	中学年				自宅等
高学年	寄宿舎			*卒業後の目標	

食育推進組織
 委員長：校長、副委員長：教頭
 委員：教務主任、保健主事、養護教諭、学年主任、給食主任（食育コーディネーター）、栄養教諭、体育主任、学級担任
 ※必要に応じて、保護者代表、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の参加

食に関する指導
 教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
 社会、理科、生活、家庭、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動
 給食の時間における食に関する指導：食に関する指導：献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
 給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
 個別的な相談指導：肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ等
 個別の指導計画、個別の教育支援計画、個別栄養相談（児童生徒、保護者）
 対応食の実施（アレルギー食・こだわり・形態食・再調理食等）

地場産物の活用
 推進委員会：年○回、構成委員（○○、○○）活動内容（年間生産調整及び流通の確認、農場訪問（体験）計画）
 地場産物等の校内放送や指導カードを使用した給食時の指導の充実、教科等の学習や体験活動と関連を図る、自立活動との関連、納入業者との交流（給食試食会、お礼のお手紙等）学級や作業班で育てた野菜の給食への活用と校内掲示

寄宿舎との連携
 1日を通しての一貫した指導支援、寄宿舎献立の発行、栄養講座、日常生活の体験（おやつ作り、食事作り等）、行事献立

家庭・地域・事業所等との連携
 学校だより、食育だより、保健だより、ホームページ、自分手帳、学校給食試食会、家庭教育学級、学校保健委員会、料理教室
 ケア会議、支援会議、事業所等連絡会、連絡ノート、懇談会への参加、積極的な情報発信、関係者評価の実施、地域ネットワーク（人材バンク）等の活用、自治体広報誌、学校運営協議会、地域学校協働本部、公民館活動・生活推進委員、生産者団体、地域食育推進委員会

食育推進の評価
 活動指標：食に関する指導、学校給食の管理、連携・調整 成果指標：児童生徒の実態、保護者・地域の実態